

会 議 報 告 書

会議名	令和4年度 第2回社会教育委員会議	
日 時	令和4年7月 27 日(水) 午後1時 30 分から3時 15 分まで	
場 所	三島市民生涯学習センター 3階 講義室	
出席者	社会教育 委員	永倉委員長、後藤委員、本持委員、渡邊委員、高橋委員、前田委員、 小藪委員、初山委員、大澤委員、石井委員、齋藤委員、飯塚委員
	事務局側	鈴木教育推進部長、若林生涯学習課長、米山図書館長、 寺田文化財課長、鈴木文化振興課長、星谷係長、稲木係長、堤主事
傍聴人	なし(公開会議、傍聴人定員 2 名)	
項 目	趣 旨	
1 挨拶	<p>●教育委員会 鈴木教育推進部長より挨拶</p> <p>●社会教育委員 永倉委員長より挨拶</p>	
2 議 事 (報告・協議)	<p>(1) 令和4年度 第1・四半期の経過報告及び 令和4年度 第2・四半期の予定報告</p> <p>生涯学習係長より資料に沿って説明</p>	
委員	<p>(質 問)</p> <p>6月 18・19 日に予定されていた「三島市少年の船代替事業事前研修」だが、定員に達しないため中止と話されていた。コロナウイルス感染拡大防止等のため中止と記載があるが、どちらが中止理由か。</p>	
生涯学習課長	<p>代替事業として県内の三ヶ日を想定し、対応できると判断して募集を行った。48 名を募集定員と設定し、再募集の延長もしたが、19 名の申込数だった。市としては定員が満たなかったということだが、一方でその申し込みについてはコロナウイルスが影響したという見方があるということでこのような記載となった。</p>	
委員	<p>少年の船の事業は、学校外での体験を通じて学校では得られない学びを得て、またとない少年時代を充実させるということが大きな目的だと思うが、コロナの収束宣言が出ない限りはこのようなことは想定される。万が一対面が不可能であったり、予定はしているが時期によって開催が出来るか分からない場合に、事前にオンラインでも出来るような学校外の学びの場という形で B プランも考えていただきたい。三島市内の他の学校の同世代と共に過ごすということはオンラインでも可能。オンラインでやり取りをすることも日常になりつつある。DX を教育の中でも進めていくことを考えると、集まらないから中止ではなく、集まることができなくても出来る方法を考え始める時期に来ている。少年の船の事業のみならず、生涯学習におけるすべての事業において、可能であればオンラインでもやってみる、計画していくことが必要ではないか。今後取り入れてもらいたい。</p>	

教育推進部長	同様の内容で生涯学習課と話し合っている。コロナがいつ収束するか分からない中、毎回中止というわけにはいかない。その時その時出来ることを本来の目的まで達せないまでも代替事業手法を考えていきたい。
委員	期待している。
委員	レッツキャンプin箱根の里についても中止になる可能性があるのではないか。これに向けて何か考えてもらいたい。
生涯学習課長	昨年度も計画しており、コロナの蔓延状況により1泊から日帰りでの縮小案で実施した。
教育推進部長	今年度7月 24 日に開催したチャレンジスクールは、南伊豆の臨海学園をキャンプ地とし、箱根の里でも行う予定であったが、宿泊での感染対策が難しいため日帰りでの実施とした。南伊豆に行き、海で体験をし、箱根の里で花火大会を行い、できる範囲の代替事業として規模を縮小し実施した。
委員長	幼児期からの家庭教育セミナーは講師が3名で6月9日から7月 15 日まで幅があるが、何回行われて、どのような内容だったのか。
生涯学習係長	同じ親子で参加し、お子様も託児できる講座。テーマが異なる為、それぞれの講師が1回ずつ全3回実施し大変好評をいただいた。
委員長	先生方のお話を聞くのか。
生涯学習係長	今回は座学が多かった。後期も予定しており、調理実習の回も考えている。
委員長	参加できないがお話を聞きたいといった場合には、YouTubeでもいいので配信出来たら良いのではないか。次回は調理実習もあり難しいかもしれないが、工夫をしていただけたらと思う。
	(2) 「文化財の保護保存及び活用について」の資料説明と ご意見ご質問に対する質疑応答
	文化財課長より資料に沿って説明
	(質問)
委員	整備が1番ではあるが、整備と情報は同時発信していくことで市民へ有効にお知らせすることが可能であり、より共感を得る整備になるのではないか。例えば、郷土資料館のインスタグラムに設備の情報も載せたらよいのでは。情報発信も気軽に取り組んでいただきたい。
文化財課長	遺跡の整備、郷土資料の調査整備も進行状況を発信することは重要。これから実施していければと思う。
委員	三島市の郷土資料館は1階に資料が凝縮されているが、2階以上は代り映えない。1階から2階へと行きやすい導線を作ったら良いのではないか。2階以上も充実させてほしい。
文化財課長	1階は企画展示で年4回入れ替えをしている。2・3階は常設展示で2階は三島市の、3階は古代の資料を展示している。バックヤードにも資料はあるので入れ替え等考えていきたい。

委員	観光大使から発信していったらどうか。観光協会とタイアップして情報の共有をしていただけたらと思う。
文化財課長	情報発信についての重要性については理解している。観光協会の方と相談しながら情報発信の方法も考えていきたい。
委員長	新しいパンフレットが作成されているが、紙媒体のみなのか。ネットからダウンロード出来るようにしたら良いのではないかな。
文化財課長	早急に対応していきたい。
委員	三島地域資料調査会で昨年度は東小、徳倉小で学校にあるものを調査した。学校や町内会、古くからの家には地域の歴史を示す文化財“たからもの”がたくさんある。建替や災害をきっかけに“たからもの”が消滅する危機にある。“たからもの”を守るため、郷土資料館と地域の学校が協力し、調査を進めた結果が『学校にあるたからもの』というパンフレットに凝縮されている。三島市は空襲に遭わなかったおかげで戦前の資料が残っている。子供たちが目にするパンフレットを作成しているので、紙媒体以外にも幅広い情報発信に努めてもらいたい。
文化財課長	地域に残っている文化財は地域の方が一番よく知っていると思う。埋もれている、知られていない文化財を掘り起こしてどんな価値があるのか再確認し、次世代へ残せる取り組みを現在事業として行っている。まとめて情報発信をしていくつもりだ。
(3) 「リカレント教育推進可能性調査」の質問に対する回答	
生涯学習課長より資料に沿って説明	
(質問)	
委員	専門的な方々を集めて事業展開していかななくてはならないのではないかな。この会議内で話し合えることは学習場所の提供、人材提供程度なのではないかな。
委員	リカレント調整会議とはどう言う会議なのかな。
生涯学習課長	大学や市の関係機関と連携して進めていくものであり、社会教育委員のみならず全庁的に構築出来たらと考えている。国・県のモデルプログラムはこれから整備されてくる。三島市は国・県に先駆けて行っているが、国・県で部署が定まれば市町村でも呼応した部署が立ち上がってくると思われる。先駆けて行った理由は放送大学がポイントにある。放送大学の本部は都道府県の県庁所在地にあるが、静岡県は静岡市ではなく三島市に拠点がある。放送大学は働きながら学ぶ体制が整っている大学であり、協力いただくことが三島市の向上につながるのとことから放送大学を通じて広げていった。組織的に適切な部署で進めていきたい。
教育推進部長	調整会議の候補はハローワーク、放送大学、鈴木学園等の専門学校、日本大学、順天堂大学、自動車学校などである。大人が職業の資格を取るにあたり関係する機関が集まり課題を出し、話し合う中で、生涯学習課として情報の集約

<p>(続き) 委員 生涯学習課長 委員 委員長 生涯学習課長</p>	<p>する役割を果たしていきたい。 リカレント教育という言葉を使わなくてはならないのか。学び直しの機会と いった伝え方ではいけないのか。 副題としてリカレントの後に学び直しと記載するなど分かりやすく進めてい きたい。 日本語なら良いという訳ではない。分かりやすい言葉で伝えるべきだ。 夜間施設貸出の際、資格と限定された理由は何か。 資格と1つの例示をしたと考えてもらいたい。</p>
<p>委員 委員長 委員 委員 委員 委員</p>	<p>(4) 委員報告 ○5月31日 公民館運営審議会 ○6月15日 令和4年度社会教育基礎研修 ○6月23日 令和4年度静岡県社会教育委員連絡協議会表彰式 表彰された委員3名より一言ご挨拶 ○6月29日 生涯学習センター運営委員会 ○6月30日 箱根の里運営協議会 ○7月7日 三島市郷土資料館運営協議会</p>
<p>委員 教育推進部長 委員 委員</p>	<p>(5) その他 (質問) 外部から講師を呼ぶ時の謝礼やコーディネーターにプランを考えてもらう場 合の予算はどうなっているのか。 次回までに回答させていただく。 総合学習の場合は学校の協働本部があり、全国的に規定がある中で、講師は 時給制で支払われる。その他の総合学習については県の補助金が出たり、各校 長先生が情報を集めている。大半は三島の運営協働本部の予算から出ている。 申請が通れば予算がもらえることもあるが、善意の部分に頼っているところ は大きい。やりくりしながら行っている。</p> <p>会議終了</p>